

府中市議会・市政レポート

いなづ 稲津 けんご



今号の主な項目

- 1面 【委員会から】事件再発防止へ議会が一丸となって挑む
- 2面 【決算審議】令和元年度決算から府中市の今後を読み解く
- 3面 【一般質問】「AYA 世代」のがん患者に市独自の支援策を
- 4面 【議会が謎だから聞いてみた】4.「一般」以外の質問



名前は長い、でも、強い想いとともに

事件再発防止へ議会が一丸となって挑む

● 新たな特別委員会を設置

2020年6月に発覚した、市議会議員と市職員らによる「官製談合事件」を受け、7月に行われた臨時会にて、新たな特別委員会が設置されることとなりました。

「公契約関係競売入札妨害事件に係る再発防止対策特別委員会」と名付けられた特別委員会は、議員2名が逮捕・起訴されたことを重く受け止め、議会としての再発防止策を取りまとめていきます。

稲津けんごは当委員会に所属していませんが、同じ議員として今回の事件に思うところは多くあります。会派内で意見を共有し、一般質問などの場を通じて、意見や対案などを提案してまいります。



● これまで議論されたこと

今回の特別委員会は、月1回以上のペースで開催されています。行政側から事件の経過の説明を受け、問題点を洗い出す作業を行いました。また、判決が全て確定したことを受け、議会内のルールを改めて検討しています。

● 「市民感覚」と公正な議論の展開を

今回の特別委員会では、「市民感覚」を持って対策を講じることが重要だと思います。

とは言え、単なる興味本位による真相究明や、政治問題と絡めてしまうと、混乱を招きかねません。問題の解決に向け、公正で真摯な議論を行うよう、地に足をつけて取り組みます。



【7月臨時会】新型コロナ対応に加えてこちらも

人事の空白を速やかに埋めよ

● 7月になっても、なお動く

2020年夏号では、6月30日時点の情報として、官製談合事件後に府中市議会市政会（以下：市政会）の議員1名が辞職し、日本共産党府中市議団の議員1名が一人会派に移ったことを綴りました。

7月に入り、一人会派の新政会所属の議員が市政会に入ることが発表されました。これにより、市政会所属議員は7名となり、稲津が所属する市民フォーラム（7名）と市政会はともに第1会派となりました。

そして、1度は3となった一人会派の数は再び2に戻り、全ての会派の数は8と変わりました。

府中市議会議員は現在27名です。欠員は3名ですが、現時点で補欠選挙は予定されていません。

● 議会運営委員会の委員長に就任

稲津はこれまで、議会運営委員会の副委員長を務めていましたが、7月の臨時会より委員長に就任することとなりました。議会への橋渡し役として、当委員会はもちろんのこと、議会の議事進行を円滑に進められるよう努めてまいります。

● その他の人事も大幅に動く

議員辞職や会派移動などに伴い、議会運営委員会以外の人事も大幅に動きました。中には、2名の欠員を全く補充しない委員会や、2つの委員会で副委員長を兼ねるケース、議会を代表して務める組合議会議員を複数掛け持つケースも出ました。

一般質問

【9月議会】相次ぐ事業の中止が発表されたが

地域防災力をいかに高めていくか検討を

● コロナ禍での防災にどう取り組む？

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、地域の防災訓練の中止や規模縮小が相次ぎました。このことを踏まえ、稲津けんごは9月2日の一般質問で、市が防災について、どのような支援体制を取っているのかを問いました。

市長や市からの答弁には、訓練の重要性を認識し、広報紙や出前講座による防災情報の活用を促す一方で、訓練の実施については各自治会や町会で判断を求めるといった意見がありました。

この答弁を受けて、稲津は市が的確に介入して、相談窓口の設置や提案を行う体制を作るよう求めました。



● 府中市版「不燃化特区」制定を

稲津が主に活動する西原町と北山町は、木造住宅が多く、かなり入り組んでいます。道幅が狭いこともあり、火災が発生すると消火活動が難しい現状があります。

そこで稲津は、東京都が23区内で実施している「不燃化特区」を府中市でも採用するよう求めました。市からは、実施に向けた動きは無いものの、税の減免や建築費の助成などの策は有効であるとの回答がありました。いわゆる「三多摩格差」を解消する上でも、この策は有効だと考えます。

また、稲津は「ポンプ付き軽自動車」を市で採用することを提案しました。



決算審議

【9月議会】予算の使い方は府中市の成績評価に

令和元年度決算から府中市の今後を読み解く

● 意外にも「初」の総括質疑

9月17日から同25日まで、府中市の令和元年度の決算審議が行われました。今回の審議で、稲津は初めて「総括質疑」に立ちました。総括質疑とは、予決算全体を検証した上で、一人会派を除く会派の代表が質問をするもので、質問回数は一般質問と同じです。

今回の質疑では、「財政と財政から見る社会・景気状況」に焦点を当て、市の見解を問いました。その中で市は、過去に積み立てていた基金を切り崩して新型コロナウイルス対策に充てたり、平和島競艇を始めとした自主財源の確保に務めたりしていると答弁し、結果的に良好な財政運営を進めていることが分かりました。



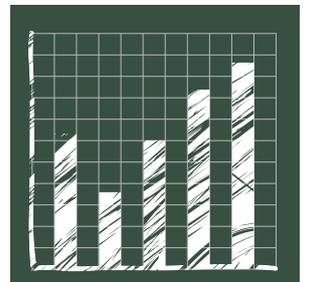
● 市の財政に課題が無い訳ではない

今回は「令和元年度」ということで、消費増税や新型コロナウイルスなどによる景気への影響は、これから大きく出るものと見ています。「現時点で財政が良好だから」と高を括る訳にはいきません。稲津は、国の動きも注視しながら、更なる企画努力を行うよう、市に要望しました。

同時に、市民の格差解消に向けての動きや、多様化する市民ニーズに応えた対応を進めるよう求めました。

他の会派からも様々な意見や要望が出され、今後、市がどのように動くのか注目したいです。

※ グラフは全てイメージです(特定の決算項目を示すものではありません)。



ひといき

市民感覚との差を感じずにはられない

「文教委員会」不実施の危機で大混乱

● 行政よ、教育現場を本当に知った上での対応か？

通常、定例会の会期に入る前に、各常任委員会の委員協議会が開かれます。この場において、行政側から様々な議案が提出されるのですが、9月議会前の文教委員協議会においては議案が全く出なかったため、「不実施」という極めて異例の事態となりました。

これについて、文教委員に限らず、多くの議員が疑問や不満の声をあげました。稲津も6月議会の一般質問で、コロナ禍における学びの保障を取り上げていただけに、今回の不実施に納得がいかず、開催に向けた対策を打つべきではと考えました。



● 結局、委員会は実施されたものの

文教委員協議会は実施されませんでした。その後、行政から議案が、また、市民から陳情が出たことで、9月議会中に文教委員会が実施されることとなりました。しかし、委員協議会が無かっただけに、十分な検討が無いため、文字通り「ぶっつけ本番」の審議となりました。

議案や陳情以外にも、委員側から「議員提出議案」を出すことで、委員会を実施することは可能です。

なお、12月議会では、文教を含めた全ての委員協議会が開かれ、委員会も全て、予定された日程通り行われました。



一般質問

【12月議会】自分らしく生きるために

「AYA 世代」のがん患者に市独自の支援策を

● 誰だって「がん」にかかり得るからこそ

「AYA(アヤ)世代」とは、15歳から40歳未満の若年成人を指します。府中がんケアを考える会の調査によると、この世代においては、がんにかかった際の支援制度が少なく、治療に加えて仕事や生活などへの不安がますます強まっているとの結果が出ています。

そこで、稲津は12月2日開催の一般質問で、AYA世代に配慮した市の支援事業について尋ねました。

市は、AYA世代に特化した支援事業を設けていないと回答。今回の質問を通じて、支援の重要性を認識していただいた一方、煮え切らない印象を受けました。



ピンクリボンは「乳がん」の啓発・支援を進める証です

● 金銭面の支援だけが全てではない

AYA世代が受けられる一般的な支援には、高額療養費制度や傷病手当金など、金銭面によるものがあげられます。しかし、仕事や家事などの支援や介護保険を受けられない状況にあるため、稲津は市に対して、早急な検討と支援事業の実施を求めました。

● 他自治体に大きなヒントが

兵庫県明石市では、訪問介護や福祉用具の貸与などでAYA世代のがん患者を支援する事業を展開しています。その他、全国で10以上の自治体でも、支援事業が実施されています。



ライムグリーンリボンは「悪性リンパ腫」の啓発・支援を進める証です

一般質問

【12月議会】自身も遺される方も慌てないために

むさし府中版 終活支援事業を充実させよう

● 「終活をやっていない」では大変なことに!

「終活」とは、自身の死と向き合い、最期まで自分らしく生きるための準備を指します。府中市では『未来ノート ~わたしの生き方整理帳~』というエンディングノート(以下:ノート)を2013年から販売しています。

このノートについて、稲津が市に尋ねたところ、ノートの販売部数は多くないが、市と社会福祉協議会が協働で作っており、普及活動を進めたいとの答弁がありました。

ノートには、自身や大切な方のことを細かく書き込めます。ノートの無料化を求める声は寄せられていないとのことでしたが、多くの方に利用していただくためにも、ノートの存在を広める必要があります。



● 幅広い世代で取り組まれている終活

一般的に、終活は「シニア世代が取り組むもの」という印象を持つ方が多いように思います。しかし、複数の民間調査によると、若い世代でも終活に取り組みたいと考える方が多く、自身が終活をした後に誰かの終活をサポートしたいと考える方もいらっしゃるようです。

市によると、ノートは特定の年齢層に限ったものとはせず、元気なうちから着手してほしいとのことでした。

生活のスタイルや状況は様々あります。これらを十分に勘案して、市の終活支援事業は幅広い課や部と一緒に取り組むべきだと考えます。終活支援事業については、今後も一般質問で取り上げる予定です。



委員会から

【12月議会】バランスを取るのは難しい

コロナ禍での国保税値上げ中止を求める声

● コロナ禍で生活が苦しいという声は多い

12月8日開催の厚生委員会では、コロナ禍の下での国保税の値上げ中止を求める陳情が審議され、同16日の本会議と合わせて不採択となりました。稲津も判断に悩むところがありましたが、これについては、市と東京都の現状を知る必要があると考えています。



● 確かに国保税は高い

国保税は所得や世帯構成などによって変動します。状況次第では、負担する保険料が高額になる(感じられる)ケースもあり、「国保税が高い」と言われる一因になっていると考えられます。

● しかし減免措置もある

府中市は以前から、国保税の支払いが困難な方に対して、減免措置を設けています。コロナ禍でこの措置を受ける方が増えると思いますが、市では減免措置によって、本来の納入金額より低くなるケースも増えると推察しています。

● 補助金打ち切りは避けたい

近年、医療費は増えており、東京都は補助金制度を設けていますが、仮に国保税値上げを中止してしまうと、補助金を受けられなくなるのです。今後を考えると、値上げ中止も難しいのです。



次回 議会 2月22日～3月22日開催予定 予算審議も

● 第1回定例会では丁寧な予算審議を

前年の予算審議では、新型コロナウイルス感染症拡大防止策として、5日間の日程が3日間に短縮されました。

今回の予算審議がどのような日程になるかは不明ですが、コロナ禍で打撃を受けた市民生活の支援や、財政の立て直しなどを丁寧に議論することになるでしょう。

尚、令和元年度の決算審議では、総括質疑がインターネットで生中継されました。今回の予算審議でも、同様の中継があるものと期待しています。

● 5月には臨時議会が開催

この臨時会をもって、現在の正副議長の任期が終了します。正副議長を新たに選出し、各委員会の人事も新しいものとなります。

● 続けて6月議会も開催

いよいよ任期も折り返し。6月議会は、一般質問や委員会審議が中心となります。早くコロナ禍が終息し、議場で傍聴できる日が来ることを願うばかりです。



【本会議（一般質問など）】

→ インターネット生中継あり。録画保存もされる。



【委員会審議（常任・特別・議会運営・予決算）】

→ 生中継されることもあるが、録画保存は無い。



【各派代表者会議】【委員協議会】

→ 生中継なし。（本来は公開すべきものです）



← 府中市議会を知る
日程や議案など、議会情報は
こちらの二次元コードから

府中市議会を見る →
本会議インターネット中継は
こちらの二次元コードから



教えて！
稲津さん

議会が謎だから聞いてみた

【質問4】



ズバリ、お答えください！
一般じゃないほうの質問ってありますか？

【稲津けんごが答えます】

● 「一般質問」以外の質問はあるのか？

あります。府中市議会では「緊急質問」が設けられています。これは、緊急性の高い項目について、一般質問とは別に質問を行えるものです。

府中市議会での緊急質問は、1960(昭和40)年代頃まで頻繁に行われていました。その当時、市内で発生した赤痢や、道路問題などが取り上げられていました。

近年は実施されていませんが、現代であれば「猛暑・熱中症」や「新型コロナウイルス感染症」などが緊急質問の対象になり得ると思います。

● 「緊急質問」が実施されるまでの流れは？

まず、緊急質問を求める議員は「緊急質問通告書」を議会事務局に提出します。これを受けて、緊急質問を実施するか否かを決める議会運営委員会が行われます。

議会運営委員会で実施の判断がなされたら、実施日程を決め、議会を招集するという流れになります。通告書の内容によっては、実施されない可能性もあります。

質問の形式は一般質問と同じ

で、一括質問（質問は3回まで）、または、一問一答（時間内であれば何度でも可）にて行われます。制限時間はいずれも60分です。質問する議員が複数居る場合は、通告書の受付順に行っていきます。



議会は3ヶ月ごと
だけど、そこまで
待てないことも。



緊急質問で市民の
不安を払拭するこ
ともあるんだね。

お知らせ 府中市を動かすのは市民の声だ

市政報告と市政相談 元気に実施中

● 市内の駅で「今」を伝える

毎週月曜日の朝は、祝日や年末年始、荒天時を除き、分倍河原駅改札口にて市政報告を実施しています。時間は朝7時からですが、始発（5時頃）から行なう場合もございます。また、不定期ではありますが、西府駅、中河原駅、西国分寺駅などでも実施しています。

● 相談窓口（事務所）もご活用を

北山町に稲津けんご事務所を開設しています。稲津不在のこともありますが、平日9時から17時まで開いています。ちょっとお話をしたい方も気軽に足を運んでください。



タウンミーティングより
(2018年)

● 稲津けんご略歴

1968年北山町生まれ・西原町在住。府中七小、私立和光中、都立狛江高卒。米・サウスアラバマ大学学士号、米・ピッツバーグ大学院修士号取得。

議会運営委員会、建設環境委員会、市庁舎建設特別委員会に所属。

市政レポート次号は2021年7月発行予定です。
(2021年4月は後援会通信を発行します)
公式サイトやSNSでも随時、活動報告をしています。



← バックナンバー
過去のレポート(PDF)は
こちらの二次元コードから



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。